

障害者も自分で自分らしく生きる

12月3日～9日は「障害者週間」です

心の病を抱えた方々が、働くことや生活することの力を身につけるための場所「合力の郷」が開成町にはあります。合力の郷へは、町内外問わず色々なところから心の悩みを抱えた方が通っています。

今回は、10月1日に神奈川県から指定を受け、「就労継続支援B型」の事業所へと移行した合力の郷についてご紹介します。



見学に来た町長(右)と記念撮影

「合力の郷」とは?

合力の郷は、「心の病を抱えた方々が、働くことや生活することの力を身につけるための場所」として、平成6年に開所しました。

一般的に、このような場所を「障害者地域作業所」と呼び、法人格を持たない法定外の「障害者の働く場や生きがいの場」として、大きな役割を担ってきました。地域作業



所は、神奈川県及び各市町村の補助を受けて運営しており、合力の郷は神奈川県及び足柄上郡5町の支援を受けて運営しています。

しかし、平成18年度の障害者自立支援法施行に伴い、神奈川県では平成23年度をもって地域作業所の補助金廃止方針を出しており、これにより今年度をもってほとんどの地域作業所が神奈川県指定の法定内事業所へ移行することとなります。

このような中で合力の郷は、法人格を持たない地域作業所から、法人格を取得し、「特定非営利法人あしたば」が運営する神奈川県指定の法定事業所「地域作業所合力の郷」となりました。



室内での袋詰め作業

就労継続支援B型とは?

就労継続支援B型とは、「通常の事業者に雇用されること困難な方を対象とする継続的な就労を支援するサービス」です。合力の郷では主に、企業からの受注(旅館用タオルの袋詰めや自動車用ブレーキの袋詰め)・公園の清掃作業・アルミ缶の回収・自主製作などの作業を通して、働く能力を引き出しています。また、自主製作した作品については、町のあじさい祭やひな祭りなどのバザーで販売もしています。

企業からの受注について、合力の郷所長・津田竜児さんは、「企業から受注した仕事の納期は絶対に守ります。そのためには残業を強いられると



水辺公園での清掃作業

きもありますが、もちろん強制的ではなく、余力のあるメンバーだけをお願いします。そうすれば、企業からの信頼を得られ、「また合力さんにお願いしよう」と思ってもらえます。さらに、合力の良さをまた別の企業へ口コミで広げてもらえるんです。」と、話されています。

メンバーからは、「合力で作業を頑張った分、工賃がもらえます。あまり多い金額ではないけれど、自分で稼いだお金で自分の好きな物を買うことは、うれしいです。」という声があります。

また、開成町のもう一箇所の地域作業所「れんげの会」も、今年度中の法定内事業所移行へ向け、準備を進めているところだ。

自分に合う仕事に出会えることや、自分が社会の中で役に立ち人に喜ばれることは、私たち全員に共通してうれしいことです。そんな喜びをより多くの方に実感していただけるように、町としての取り組みもさらに強化していきたいと思えます。

福祉課 ☎84-0316

子育てワンポイント 92

下の子が生まれ、甘えがひどくなりました。(三歳児)

A 子どもにとって、弟や妹が生まれ、お兄ちゃんやお姉ちゃんやお姉ちゃんになることは楽しみなこと。しかし下の子が生まれ、環境が変わると戸惑うこともでてきます。ぐずったり、おもらしをしたり、今までなかったようなことをして、お母さんを困らせることもあるでしょう。それは、自分もかまってほしいというサインです。そこを受けとめてあげ、ぎゅっと抱きしめたり、頭をなでたりとスキンシップをたくさんとってあげましょう。親子で触れ合うことで、子どもの気持ち安定してくると、そのような心配も減ってきます。



親子で一緒に手遊び

上の子が、弟や妹をかわいがったり、お手伝いをしてくれたら、たくさんほめてあげてください。少しづつ

つお兄ちゃんやお姉ちゃんに成長していくので、あせらず見守っていきましょう。

開成幼稚園

のびのび子育てルーム ☎82-4247

☎83-4198

今

年度、私は、学級担任として一年生と一緒に勉強をしています。早いもので、入学してからも半年以上がたちました。入学時と比べると、少しお兄さんお姉さんの顔つきになってきたように感じています。

そ

今、一緒に学校行事の音楽会である「しいのみコンサート」に向けて合唱と合奏の練習を毎日一生懸命に行っています。

練

習は、夏休み明けから本格的に始まりました。5本指を使つての鍵盤ハーモニカの練習を行いました。入学前に演奏したことのある子どもも少しいましたが、ほとんどの子どもたちは全く初めてでした。練習を始めると、音が鳴るおもしろさと、曲になる楽しさに気づき、昼休みなどにも積極的に鍵盤ハーモニカを練習するようになりました。

今

では、大半の子が5本の指で曲を奏でていきます。「しいのみコンサート」では、合奏ですので、自分一人

だけではなく、学年みんなの音を聞きながら、リズムも気持ちも一つにしていかなければなりません。指揮者を見ながら鍵盤ハーモニカを演奏するのは、とてもむずかしいことです。初めのうちはどの子ども、自分の鍵盤ハーモニカを奏でるのに精一杯でした。しかし、練習を重ねるうちに、



開成小学校教諭 鍵和田里鶴

子どもたちがお互いに、「一緒に練習しよう」と声をかけ合う姿が見られるようになりました。

このような経験を通して、子どもたちはみんなですべてのことに取り組み難しさだけではなく、その楽しさやおもしろさを子どもたちなりに感じとっているようです。

しいのみコンサートでは、入学式に並んだ体育館のひな壇に登壇します。一回り大きく成長した子どもたちと一緒に「しいのみコンサート」を楽しみたいと思っています。

